

膝関節（変形性膝関節症） 変更理由（シート A）

●CQ 番号： 1～7

作成： ステートメント

変更理由、経過

CQ1：膝関節可動域低下がある人工膝関節置換術後の患者に対して、理学療法は推奨されるか。

必要となる有料の文献数、全体の作業量、スケジュールを勘案した結果、成果物を完成させるため形式を推奨文からステートメントへ変更とした。

CQ2：膝関節可動域低下がある高位脛骨骨切り術後の患者に対して、理学療法は推奨されるか。

必要となる有料の文献数、全体の作業量、スケジュールを勘案した結果、成果物を完成させるため形式を推奨文からステートメントへ変更とした。

CQ3：運動機能低下がある人工膝関節置換術後の患者に対して、漸増膝伸展筋力強化は推奨されるか。

必要となる有料の文献数、全体の作業量、スケジュールを勘案した結果、成果物を完成させるため形式を推奨文からステートメントへ変更とした。

CQ4：運動機能低下がある高位脛骨骨切り術後の患者に対して、漸増膝伸展筋力強化は推奨されるか。

必要となる有料の文献数、全体の作業量、スケジュールを勘案した結果、成果物を完成させるため形式を推奨文からステートメントへ変更とした。

CQ5：運動機能低下がある軽症（K-L 分類 1 または 2）変形性膝関節症に対して、理学療法は推奨されるか。

必要となる有料の文献数、全体の作業量、スケジュールを勘案した結果、成果物を完成させるため形式を推奨文からステートメントへ変更とした。

CQ6：運動機能低下がある中等度から重度（K-L 分類 3 または 4）変形性膝関節症に対して、理学療法は推奨されるか。

必要となる有料の文献数、全体の作業量、スケジュールを勘案した結果、成果物を完成させるため形式を推奨文からステートメントへ変更とした。

CQ7：運動機能低下がある軽症（K-L 分類 1 または 2）変形性膝関節症に対して、単独で行う理学療法と、患者教育・生活指導との併用のいずれが推奨されるか。

必要となる有料の文献数、全体の作業量、スケジュールを勘案した結果、成果物を完成させるため形式を推奨文からステートメントへ変更とした。